

令和元年度

青少年育成春日部市民会議

「未来を担う私たちの主張（青少年の主張）」作文



青少年育成春日部市民会議

## はじめに

「未来を担う私たちの主張（青少年の主張）作文」は、青少年が日頃考えていること、また、体験したことや感じたことを作文という形で表現することによって、青少年自らが、広い視野に立って物事を考える力を養うとともに、自分自身を見つめなおす機会としています。

あわせて、青少年の考えを多くの人々に訴えることにより、同世代の青少年の意識啓発と、青少年の健全育成に対する大人の理解を深める契機としています。

市内小中学校に通う児童、生徒を対象に募集を行い、今年度は小学生の部から千二百六十八編、中学生の部から六百五十八編の応募がありました。『日常生活』『人間関係』『将来の夢や希望』『国際問題』など、様々なテーマでの力作が集まりました。

応募作品の中から入選作品二十二編が選ばれ、その中から、最優秀賞一編、優秀賞五編が決定しました。この作品集は、最優秀賞、優秀賞の計六編をまとめたものです。青少年が心に抱く様々な主張を、多くの方にご一読いただければ幸いです。

目次

○ 未来を担う私たちの主張作文〈最優秀賞〉

気持ちを込めて、感謝を伝える

春日部市立備後小学校六年

菊島 来愛

1

○ 未来を担う私たちの主張作文〈優秀賞〉

あの時の後悔、心の広い世の中へ

春日部市立小渕小学校六年

畠澤 菜ノ花

4

祖母の家で思う事

春日部市立武里西小学校六年

狐塚 紳悟

7

私があこがれる職業

春日部市立川辺小学校六年

倉持 香菜美

10

曾祖母からの贈り物

春日部市立武里中学校三年

本間 琴音

13

今、私たちが架け橋に

春日部市立葛飾中学校二年

門脇 葵

16

○ 青少年育成春日部市民会議のあゆみ

19

## 未来を担う私たちの主張作文〈最優秀賞〉

気持ちをこめて、感謝を伝える

春日部市立備後小学校六年 菊島 来愛

「将来は花屋さんになること」これが、私の夢だ。私は、植物が好きだし、祖母も花屋の仕事をしてきたからだ。祖母は、いつも私に優しい。その姿はひまわりの花のようだ。私が花屋になりたいたいと思ひ、植物を好きになったのは、祖母とのある出来事がきっかけだ。

ある日、祖母と二人きりで花屋さん行った。そのとき、祖母がある花を指して言った。「この花みために優しくいい大人になってね。」

私は、大きくうなずいた。祖母が、指したのはカーネーションだった。しかし、私は本当に良い大人ってどんな人だろう、私はそんな大人になれるだろうか、と思った。私がそんなことを考えている間に、祖母はそのカーネーションを買っていた。そして、家に帰ってそのカーネーションを見つめていると、なぜか心がいやされた。このことがあってから、私は植物が好きになっていた。

その日、晚ご飯の支度を手伝っていたら、祖母が突然話しかけてきた。

「カーネーションの花言葉、なんだと思う。」

当然、私は、カーネーションの花言葉なんて知らなかったもので、本で調べることにした。すると、カーネーションの花言葉が「感謝」であることが分かった。祖母の言っていた「良い大人」とは人

や物に感謝の気持ちを伝えられるような心の広い大人のことなのだろうか、と思った。でも、まだ意味がよく分からなかった。どうしたら感謝の気持ちを伝えられるのか、人には伝えられるけど、物にはどうしたら伝えられるのか。疑問に思うことが山ほどあった。そこで、私は祖母に相談することにした。

「どうしたら感謝の気持ちを伝えることができるの。」

と、私は祖母に聞いた。すると、すぐに返事が返ってきた。

「自分で考えてごらん。きっと答えが見つかるはずだよ。」

私は、ますます分からなくなってきた。

それから何か月も考えて、気が付けば五月の母の日になっていた。私は、祖母ならどのような母親に感謝の気持ちを伝えるか考えてみた。祖母ならきっと気持ちを受け取る側が喜ぶようなことをするだろう、と。もし、物だったらどうだろう。しばらく考えて、「あつ」と祖母がいつも使っている緑の鉛筆を思い浮かべた。その鉛筆は、もうだいぶ古くなっているが、祖母は、今でも大切に使っていたのだ。私は、物に感謝の気持ちを伝えるには、大切に使うのが一番だと思っただけで、母の日のプレゼントは何にしよう。よく考えて、手紙をプレゼントすることにしよう。母に渡すと、母の目にはなみだがあふれ出していた。その前の年にプレゼントした六千円もしたワンピースよりもずっとずっと喜んでもらえた。私は、母に感謝の気持ちが伝わったんだな、とうれしくなった。

この経験から、私は、感謝の気持ちを伝えるのは、物の値段でもなく、見た目でもなく、そのと

きの自分の気持ちが大切だと思った。感謝の気持ちを持たずに高価な物を買うよりも、人にどう見られるかを気にして、すぐに新しい物にしてしまうよりも、感謝の気持ちを持って言葉や行動で示す方が、人にも物にも感謝の気持ちを伝えることができる。私はそのことが一番大切だと思う。

私は、祖母の言っていた「良い大人」とは、いつでも感謝の気持ちを持って行動できる人のことだと思う。私は将来、花屋さんになりたい。だから、お店に来てくれたお客さんへ買ってくれる花にこめて伝え、少しでも多くの人に笑顔になつてもらえるように努力したい。そしてひまわりのような祖母のように、私はカーネーションみたいになれるようにがんばりたい。

## 未来を担う私たちの主張作文〈優秀賞〉

あの時の後悔、心の広い世の中へ

春日部市立小渕小学校六年 畠澤 菜ノ花

「いじめ。」それは、人の心を傷つける、最低の行動です。時には心を傷つけるだけでなく、命までうばってしまう、とてもおそろしいものです。だから、絶対にいじめをしてはいけないことを、ずっと先生たちから教わってきました。それなのに、私はいじめをしてしまったのです。六年生になった今でもそのことを後悔しています。

三年生の時のことです。クラスの一人の女の子が、みんなから悪口やかげ口を言われ、仲間外れされるようになりました。その子がみんなに何かをしたわけではありません。ただよく一人で行動をしていたから。それだけの理由で、その子は「うざい」や「きもい」などのひどい言葉をあびせられ、いじめられたのです。私も一緒になってかげ口を言ったり、見て見ぬふりをしたりしてしまいました。なぜかという、止めたら今度は自分がやられるかもしれない、友だちがいなくなってしまうかもしれない、と思ふとこわくなったからです。その子のことよりも、自分のことを優先してしまいました。

あの子は当時どんな気持ちだっただろう。この作文を書きながら考えてみました。きっとすごく

つらかったと思います。誰か一人でも助けてほしい、でも誰も助けてくれない。こんな学校いやだ、もう行きたくない。きつと私だったらそう思うと思います。何で先生や親に言うとか、一緒に止めてくれる仲間を探すとか、もつとしなかったのだろう。今ならできることが、あの時はできませんでした。それどころか、いじめる方に入ってしまった。なんて最低なことをしたのだろうと、すぐ後悔をしています。でも、その子はそんな中でも毎日学校に登校し続けました。私だったらたえられません。とてもすごいと思います。でも、見た目は平気そうに見えても、もしかしたら本当は見えない所で泣いていたのかもしれない。そんなことを考えずに、私たちはいじめをし続けてしまいました。

いじめはその後なくなりました。先生が何かのきっかけで気づき私達に注意をして終わりました。結局誰も自分たちでいじめを終わらせることはできませんでした。

今、その子はみんなととても仲良くしています。たくさんしゃべるようになり、一人でいることも少なくなりました。でも、私は時々三年生の時のことを思い出してしまいます。そして、その子を見る度胸が苦しくなります。やった方でもこんな覚えているのだから、やられた方は絶対に忘れていないでしょう。今は笑っていても、その時の傷は一生消えないと思います。私達はそれだけのことをしてしまいました。

世界には、いじめが原因で学校に行きたくなくなってしまう人、生きるのがつらくなって自殺した人がたくさんいます。でも、反対に、誰かのおかげで救われた、友だちがいたから頑張れた、ということも聞きます。私達のちよつとした行動一つでどちらの方向にも簡単にいってしまいうので



す。言葉や行動の重さに、改めて気づかされました。

もしも、また六年生で再びいじめが起こつたら、今度こそ間違えません。自分がいじめられることをこわがらず、いじめている子を注意したり、先生に伝えたりしたいです。その子が一人で苦しむことがないように、力になりたいです。

自分のやったことは決して消えませんが、でも、やったことを忘れずに反省して、次に生かすことはできます。私は今回のことで、行動することの大切さを学びました。世界中の人を助けることはできないけれど、自分の周りにいる人を大切にして、もう絶対に誰かを傷つけるようなことはしません。いじめゼロのクラスを目指して、残りの小学校生活を過ごしていきます。

## 祖母の家で思う事

春日部市立武里西小学校六年 狐塚 紳悟

どこまでも、すみきった空気、まぶしい陽ざし、土と葉っぱと木の香り、小川のせせらぎ、どこまでも続く田んぼと秋にたくさんの大きな実を落とす栗林の向こうには男体山が見えます。ぼくは田んぼのあぜ道で祖母の愛犬「もも」の散歩をしています。ここは栃木県日光市にあるお父さんの実家、七十才を過ぎた祖母が古くて大きい家に独りで住んでいる田舎です。

ぼく達家族は、お父さんの仕事の関係で春日部市に住んでいます。ぼくは年に何度かとまりに行く日光の祖母の家が大好きです。お母さんもここにとまるのが好きなようで、いつも「日光の別荘」と呼んでいます。とても田舎で人口も少ない所です。近くには、ぼくの小学校より広い校庭の小学校がありますが児童数がわずか六十人位だそうです。買物も六キロはなれてやつとショッピングモールがあるくらいです。

祖母は、「家族一緒にここで暮らせたら」とお父さんによく言っていますが、お父さんはあまり乗り気でないようです。こんないい所にみんなで暮らせたら楽しいとぼくも思いますが、実はいろいろな問題があることに気付きました。

祖母は先日、緑内障で入院しました。手術して無事退院しましたが、しばらく目が見えないため、転んでけがをしました。こうした中でも、お父さんも仕事があるし、お母さんもぼく達の用事があ

るから、いつも祖母のそばにいられません。病院へ行くのも祖母は親せきにお願いで送ってもらっていたそうです。ものの散歩も近所のおばあさんにたのんだそうですが、おばあさんも年をとって足が悪いため大変だったそうです。そうなのです。祖母が住んでいる所は、人口がとても少ない上に、祖母をはじめお年寄りばかりなのです。お年寄りばかりで田んぼや畑を耕し、夏は草をかって冬は雪をかいて暮らしているのです。ぼくは田舎で暮らすことはとても大変なことが分かりました。祖母の家にとまりに行った時は、ぼく達が快適に過ごせるのは、いろいろ祖母が準備してくれるからです。それから新せんな野菜や米、甘いいちごをいつも宅配で送ってくれます。

ぼくは祖母に感謝しています。同時に、田舎で暮らす祖母のような人たちへの心配と家族の生活のためとはいえ、はなれて暮らすことに複雑な気持ちになりました。

今、ぼくは春日部でたくさんの方達の友達や先生にめぐまれ、楽しく暮らせています。コンビニやじゅくも近くだし、とても便利です。

ただ、毎日食べる給食やご飯は大変な思いで田舎の人々が作り、年をとって作ることができなくなるかもしれないのです。

お父さんがよく「人生九十年、お年寄りの介護と農業の後継が大きな問題だ。」と言っています。お父さんは、「会社を引退したら田舎に帰って祖母の面どうをみる」と言っています。お父さんもぼく達が一人前になるまでは仕事を引退できません。ぼく達ができることといえば、せめて祖母を大事に優しくすることです。とまりに行ったら祖母のお手伝いをするとか、もう少し大きくなったら畑の手伝いをするとかお墓の草取りをするとか、できることはたくさんあると思います。

ぼく達がとまりに行くと、祖母はとても元気です。大きくて明るい声でぼく達に優しくしてくれます。でも本当は、とてもつかれていて体のあちこちが痛いのだと思います。ぼくはまだ子供です。将来の仕事など、全然考えていません。お年寄りや、見えないところで一生けん命働く人達を思いやれる大人になろうと思います。そして、自分だけでなく、みんなが不自由なく幸せに暮らせるような世の中のためになりたいと思います。

## 私があこがれる職業

春日部市立川辺小学校六年 倉持 香菜美

今の日本は高齢化社会と言われています。そこで今も、これから、必要になってくる職業があります。それは「介護士」です。介護士の仕事は、お年寄りや障害のある方に合った手助けをします。会話が成り立たない方の気持ちや思いに気付けないと、相手を不安にさせてしまったり、関係が上手く築けなかつたりする仕事でもあります。なので、とっさの出来事にも判断する能力と、常に気配り、目配り、心配りが必要になってくるのです。

介護士は私の将来目指している職業です。目指すきっかけとなったのは、お母さんが介護士の仕事をしていて、実際に働いている姿を見たからです。お母さんが働いているところは、特別養護老人ホームといわれる施設で、その施設を利用している老人の方々はそこで生活しています。利用者の方々と楽しそうに話をしているお母さんの姿を見て、自分もお母さんのように人と楽しく関われる仕事に就きたいと思いました。また、仕事を見に行った時に、利用者の方の洗たく物をたたむお手伝いをさせてもらいました。洗たくや掃除、入浴、食事など身の回りの生活のサポートをするのも介護士の仕事です。自分が力になれることが介護士の仕事には多くあると思います、力を発揮したいと思いました。

介護士の仕事に就くために、これから頑張っていきたいことが二つあります。一つ目は「だれにでも自然な笑顔で接すること」です。お母さんが働いている姿を見たとき、お母さんは常に笑顔で

利用者の方々と関わっていました。利用者の方がとても安心した様子で過ごしている所を見て、笑顔は人に安心感を与えることができるのだと思いました。私も、もしも不安がっていたり、悲しい思いをしていたりしている友達がいたら、笑顔で話を聞いてあげたいです。

二つ目は、「いつも自分の気持ちに余裕を持つこと」です。余裕を持つことは、介護士にとって大切なことです。気持ちに余裕を持つためには、自分自身のやるべきことをしつかりこなして、時間の余裕を作っておく必要があります。そうすると、介護士の仕事に就いたとき利用者の方々一人一人と関わる時間を十分に作ることができ、生活していく上での不安を取り除き、安心感を与えられると思います。また、普段の私自身の生活の中でも、正確性が高まると思います。例えば、急いで算数の問題を解こうとすると、計算ミスをたくさんしてしまいます。しかし、時間に余裕をもってじっくり取り組むと、正しく解くことができました。介護の仕事は人と関わる仕事なので、間違えがあると時には命に関わることもあると思います。正確に仕事をこなしていくためにも、普段の生活から意識していきたいです。

介護ロボット等、日本では様々な介護機械が発明されています。介護の仕事は利用者の方の体を支えたり、動かしたりと重労働です。ロボットが全ての仕事をしてくれれば、介護の仕事は楽になるかもしれません。しかし、人の力でないと出来ないことが私はあると思います。それは、「笑顔」です。人とのやりとりや信頼を積み重ねて、人は笑顔でいる時間が増えると思います。利用者の方との時間を大切にして、みんなが笑顔で過ごしていけるように、私自身もこれから笑顔を大切にしたいです。

私の目標であるお母さんのような笑顔が絶えない介護士になるために、自分ができる最大限の努力をしていきます。

曾祖母からの贈り物

春日部市立武里中学校三年 本間 琴音

あなたは最近「ありがとう」と伝えていますか。感謝の気持ちを伝えていきますか。口には出さずに、心の中で思っているだけですか。感謝していることを「伝える」ことは、とても大切なことです。

私がそう思うきっかけは、曾祖母の「だれかに優しくされたとき、感謝の気持ちを込めて『ありがとう』って言えよ」でした。当時の私には意味など分かりませんでした。が、「ありがとう」と伝えていると「ありがとう」と言われるようになりました。その時、「ありがとう」と言われた時の嬉しさを、曾祖母は伝えたかったのかなと感じました。

先日、「当たり前が当たり前でできるすばらしさ」について、話を聞くことができました。例えば、毎日三食のご飯を食べたり、学校に通えていること。このことは、自分一人ではできません。誰かしらの力が必要です。それは、親かもしれないし、友達かもしれない。はたまた全く知らない人かもしれない。そういう人たちに「ありがとう」の魔法の五文字を伝えることが、一人一人が豊かに生きていくうえで、非常に大切だと思います。

少し話が変わりますが、私は祖父と祖母、そして母に嫉けられました。箸の持ち方も鉛筆の持ち方も教わりました。

聞いたところによると、例えば箸の持ち方は保育園や幼稚園で教わるようになったそうです。ま



た鉛筆の持ち方も親が教えるのではなく、保育園等で教わるそうです。

このことは、家庭での教育力が低くなりつつあることを示しています。私は、親が自分の子どもに対して教育しているからこそ、感謝する心を育むことができるのだと考えます。感謝する心だけではありません。人間関係を円滑にする「あいさつ」もしない、できない人間を育てているのではないのでしょうか。

「あいさつ」は、人にするだけではありません。食事をする前に言う「いただきます」は、食べ物や作ってくれた人への感謝、食後の「ごちそうさま」は、命をいただいたことへの感謝、どちらも毎日のあいさつの中に感謝があります。

しかし感謝の気持ちは、強制されては伝わりません。何かをしていただいたり、一人ではできない、成り立たないことをされて、「うれしい」と自然に心から感じることに、これが感謝です。そういう感情は、自分でコントロールできるようなものではなく、自然に出てくるもの、わきあがってくる「本音」です。本音の言葉だからこそ、伝わり合うのです。

曾祖母から教わった「ありがとう」。曾祖母が亡くなる時に、側にいることができず、最後の「ありがとう」を伝えることができませんでした。今もし生きていたならば、どんな些細なことでも「ありがとう」と伝えていたはず……そして、毎日の「あいさつ」も違ったものになっていたはず……。

私は今みなさんに「ありがとう」の重みと「あいさつ」の大切さを改めて知ってほしい。「ありがとう」は「有難う」と書きます。滅多にないこと、有ることが素晴らしいことを示します。だからこそ、どんなことでも当たり前前を当たり前前に思わず、また当たり前前にしていることに対して、「あ

りがとう」と伝えたい。そして「ありがとう」のような「あいさつ」を日々大切にしていきたい。このことが今の社会に求められているのではないのでしょうか。

この曾祖母の教えは、人と人とを円滑にするだけではなく、世界で起きている紛争の解決にもつながると信じています。

今、私たちが架け橋に

春日部市立葛飾中学校二年 門脇 葵

「そんなことも知らんのか。」

小学五年生のとき、父に言われた言葉です。八月十五日、父と私はテレビの特集を観ていました。八月十五日。この日何が起こったかご存知ですか。私のように知らなかった人も大勢いるでしょう。この日、第二次世界大戦が終結しました。白黒で描かれた多くの戦闘機や人、全てのものが無くなった焼け野原の映像をよく覚えています。現在の華やかで高層ビルが林立する東京からは想像もできない光景でした。日本の戦闘による死者数は約二三〇万人、民間人の死者数も約六〇万人以上と言われています。

これらの映像を目の当たりにし、私はただただ驚きました。興味が無かったものが一瞬にして頭の中で大事件となりました。もし、父と特集を観ていなかったら、私の戦争に対する認識は甘く薄いものになっていたでしょう。

日本は日本国憲法第九条で戦争を放棄し、戦力は保持しないことを明記しています。あの戦争の敗戦国として二度と同じような過ちを繰り返さないように努力をする心が日本人としてとても誇らしいのです。

よく、スポーツの試合などで「負けて学ぶことがたくさんある」と言います。戦争が終結した直後、得られたこと、学んだことなど無かったと思います。しかし、七十四年という時の中で、様々

な多くの人が戦争について考え、努力した。これこそが負けて得たこと、学んだことだと思いました。戦争の無い時代に戦争を知ることができて、嬉しいです。

そして、二〇一九年五月一日から改元された今年は「令和元年」として再スタートしました。私を含めた多くの国民が争いごとが〇<sup>ゼロ</sup>だった平成に感謝し、令和も争いごとが無いようにと願いました。

令和に生まれた子は、「戦争」という言葉の意味も惨禍もきつと分からないまま、大人になるのだと思います。私たちが大人になったとき、戦争を体験した方は今よりもっと減っているでしょう。それでは、誰が覚えていて伝えるのでしょうか。それは、私たちです。私は二度と戦争を起こさないように、しないためにどうするのかは分かりません。起こりそうな小さなきつかけを探して解決することもできません。私ができることは身近にいる戦争を知らない私たちより小さい子供たちに「戦争は楽しいことではない、正当なものでもない、これから先戦争を起こしても学ぶことなんてない」ときつちり認識させて伝えることです。そして、その子供たちが何かの弾みで「戦争」を知り、何かと問われたときに父や母のように答えられる知識を持った人になります。

世界ではまだまだ紛争が絶えません。私たちが生きているこの日常は当たり前ではありません。前の時代を生きた人々の努力の結晶だと思います。すぐに世の中を変えていくような行動を起こすことはできないけれど、まずはあの戦争がいかに残酷で辛く、不幸なことか忘れないこと、知っていくこと、そしてそれを伝えていくことが私のやるべきことです。今は私たちが架け橋となります。今できることを今やります。今私たちが手にしている「平和」がこの先ずっと続いていくように。

この世界が本当に平和な世界になるように。

## 青少年育成春日部市民会議のあゆみ

### 平成八年度

- ・春日部市青少年健全育成推進会議設立（七月二十七日）
- ・かすかべ郷土かるた大会を推進会議と教育委員会との共催で実施（十二月十五日）
- ・捨て看板等の違法広告物撤去作業スタート（十二月二十日／平成十七年度まで毎年実施）

### 平成九年度

- ・ふれあい広場での非行防止啓発活動スタート（十一月二日）
- ・冊子「たいせつな家庭」作成・配布（平成十六年度まで毎年作成・配布）

### 平成十一年度

- ・市内幼稚園・保育園・保育所の園長・所長を交えて「家庭教育座談会」を実施（九月二十二日／平成十六年度まで毎年実施）

### 平成十四年度

- ・春日部市青少年健全育成基本条例施行（四月一日）
- ・第十回かすかべ郷土かるた大会開催（十一月二十四日）

### 平成十六年度

- ・「青少年育成春日部市民会議」に名称を変更（四月一日）

## 平成十八年度

- ・第十四回かすかべ郷土かるた大会より、小学生の部、中学生の部に分けてトーナメント戦を実施（十一月十九日）

- ・青少年育成春日部市民会議設立十周年記念式典を開催（十二月十四日）

- ・青少年育成埼玉県民会議青少年育成功労賞受賞

## 平成二十一年度

- ・シラコバト賞受賞（十一月十四日）

## 平成二十二年度

- ・第十八回かすかべ郷土かるた大会より、一部改定した新かるたを使用（十一月十四日）

- ・青少年関係団体連携活動講演会を開催し、ノーベル化学賞受賞者 白川英樹筑波大学名誉教授を講師に迎えた（一月二十三日）

## 平成二十三年度

- ・第二十回記念かすかべ郷土かるた大会にて、ファミリーの部を開催（十一月十一日）

## 平成二十五年度

- ・市民会議ロゴマークを制定

- ・環境浄化活動講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として俳優 藤岡弘、氏を迎えた（十月二日）

## 平成二十六年 度

- ・ 家庭教育講演会を、会員及び一般市民を対象に開催し、講師として直木賞受賞作家 志茂田 景樹氏を迎えた（二月十三日）

## 平成二十八年 度

- ・ 市民会議設立二十年記念 青少年健全育成標語募集事業を実施



令和二年 一月発行

編集・発行

青少年育成春日部市民会議